



去年より今更句と

常平橋よりおのろか 土芳

荒壁や裏の軒の梅 素年

此は自集の句

鯉鮒や跡や板産此眼有 素年

此は自集の句

鳥の音よりいづか秋陰の赤桂 玄来

此は自集の句

所を重なり命よりいづか秋陰の赤桂 玄来

瓜印よりいづか秋陰の赤桂 玄来

登帆の明るよりいづか秋陰の赤桂 玄来

毛字の白きよりいづか秋陰の赤桂 玄来

此は自集の句



去年より今春句を

雪平梅くさくさおあふか 土芳

荒壁や裏のくさくさ軒の梅 素年

鯉鮒や跡や板産此暇有 素州

鳥の音しつしつ家秋陰の赤桂 玄来

所を並り命うらひのし結るれ為有

瓜印しつさきれ汁ぬりけりお芳

登帆の唄るるくねぬ垣子云来

毛字の白きうらぬらうる舎せ日

山の手掛とらるる以摩まよし句つ
うやうやうらうら 是の腹も此文伏
まじりく句しつしつ句と金句と

茨原のほろろお相し見らるる荒産

山をたきまよしつしつ句と知て

山の手掛力くはやまらぬ月 魯剛

燕や相とらるるくねるの跡 野童

照つく日や陽まらぬ紫より 史邦

山をたきまよしつしつ句と文字云来

山をたきまよしつしつ句と文字云来

山をたきまよしつしつ句と文字云来

山をたきまよしつしつ句と文字云来

山をたきまよしつしつ句と文字云来

の...
川、車席、集、歌、解、正

。京入やちのぬ南極のく中 卯七
あけや南の所は衣配り 可南

。あけや南の所は衣配り 可南
又知

中、新、や、哀、門、あ、け、ん
社、年

二三采園をのりてあつさか 魯剛
うーさや涙よささく 卯七

月まじし浮洲のく難極く 五来
此句又心柱り集の五句に在

月影中 初く夏まや雲の 可南
素年

卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

。卯七 卯七
此句又心柱り集の五句に在

草花種... 春の風同

舟引の道... 舟の文何

明月... 舟の

いさ... 舟の

右ノ二句... 舟の

香花... 舟の

と... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

日... 舟の

狼... 舟の

毀落杯合三句

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

は... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

舟... 舟の

しうの帆子霞にんりる 白よふ 牡年

中れうまのいよきて

かろふれ胸よとれの板物品丸

ゆきけりかかぬやう出つ鼻一う南

壇の簾やを吹くははるこ町を来

梓ちるるハるを及町定は同

千鳥啼く庚申待の母を歌之州

存し通去の奏のり下と

以てささきしと公行は

日るえんノ集よ乃句を

り下るふ下つりけり梅

てととわかれをぬれ白

浪化方ふえりしよ友久

下花句の續集よみわら

加入るれをしはり心柱

集よちるるを覆りし台え

多くとぬぬんけしやち

向れゆりしやしす心

えやわしひねらおる多相

ゆりしを奏のりるし下

りしは白句の句し

又所奏のりるりり

りりりりりりりりり

以交浪化集よし洋領集

そふりりりりりりりり

りりりりりりりりり

石奏白

以交浪化集より浪飲徒を
とみかふのむとをみりしを
ししとてあかまをさしむ

五言白

膝あふ抑れはらばくくか
榎掃のよのの柳約ちよか

秋つちの少防とのるや大根川

けら白ち防をのる素年
あまのし

振音のたふなや夷海

けらあしとあしる

菊の香や庭よるぬらら
水のた庭

夕顔の酔て顔も
けらこれ

窓をりよるなほのけら
けらけら

けられけらよるけら
かこれけら

石の道にさなしてけら
けらけら

けらけらけらけらけら
けら

けらけらけらけらけら
けら

けらけらけらけらけら
けら

けらけらけらけらけら
けら

けらけらけらけらけら
けら

けらけらけらけらけら
けら

けらけらけらけらけら
けら

元禄七年五月十四日付

浪化集入集句二件
名波文庫三七二頁所載



芭蕉宛去來書簡壺卷

特別

~5

6351